

令和2年度

事業・決算報告書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

I. 事業報告

II. 決算報告(計算書類)

社会福祉法人

真光会

目 次

I 事業報告

1. 概 要	1
2. 事業実施状況	1
(1) 会務の運営	3
(2) 役員及び評議員の状況（令和3年3月31日現在）	4
(3) 令和2年度実施事業等	5
3. 施設福祉部	7
(1) 令和2年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告	8
(2) 短期入所生活介護利用状況	11
(3) 令和2年度 月別行事報告	13
(4) 令和2年度 実習受入実績報告	13
4. 在宅福祉部	14
(1) 三和荘通所介護事業所	16
(2) 三和荘訪問介護事業所	18
(3) グループホーム三和の邑	20
(4) 三和荘ケアハウス	22
(5) 地域包括支援センター	24
(6) 三和荘居宅介護支援事業所	27
(7) グループホーム三和苑	29
(8) 三和苑デイサービスセンター	31
(9) グループホーム出水	34
(10) デイサービスセンター出水	36
5. 事務部	40
6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検	42
7. 職員研修の状況	43

II 決算事業報告

(法人決算報告書)

1. 財産目録（別紙4）	46
2. 法人単位資金収支計算書（第一号第一様式）	48
3. 法人単位事業活動計算書（第二号第一様式）	49
4. 法人単位貸借対照表（第三号第一様式）	50
5. 社会福祉事業区分資金収支内訳表（第一号第三様式）	51
6. 社会福祉事業区分事業活動内訳表（第二号第三様式）	52

7.	社会福祉事業区分貸借対照表内訳表（第三号第三様式）	53
8.	計算書類に対する注記（法人全体）（別紙1）	54
9.	寄附金収益明細書（別紙3(2)）	57
10.	補助金事業等収益明細書（別紙3(3)）	58
11.	基本金明細書（別紙3(6)）	60
12.	国庫補助金等特別積立金明細書（別紙3(7)）	61
	（三和荘拠点区分決算報告書）	
13.	三和荘拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	62
14.	三和荘拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	65
15.	三和荘拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	68
16.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	69
17.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(8)）	72
18.	引当金明細書（別紙3(9)）	73
19.	三和荘拠点区分事業活動明細書（別紙4）	74
20.	積立金・積立資産明細書（別紙3(12)）	75
	（三和荘ケアハウス拠点区分決算報告書）	
21.	三和荘ケアハウス拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	76
22.	三和荘ケアハウス拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	78
23.	三和荘ケアハウス拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	80
24.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	81
25.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(8)）	83
26.	引当金明細書（別紙3(9)）	84
27.	積立金・積立資産明細書（別紙3(12)）	85
	（出水拠点区分決算報告書）	
28.	出水拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	86
29.	出水拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	88
30.	出水拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	90
31.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	91
32.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(8)）	93
33.	引当金明細書（別紙3(9)）	94
34.	出水拠点区分事業活動明細書（別紙4）	95
35.	積立金・積立資産明細書（別紙3(12)）	97
	（三和苑拠点区分決算報告書）	
36.	三和苑拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	98
37.	三和苑拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	100
38.	三和苑拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	102
39.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙2）	103
40.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙3(8)）	105
41.	引当金明細書（別紙3(9)）	106

42.	三和苑拠点区分事業活動明細書（別紙4）	107
43.	積立金・積立資産明細書（別紙3(㊸)）	109

I 事業報告

1. 概 要

(1) 当法人では、その使命・理念・基本方針の下、昨年度の努力目標に沿い、かつ「個別対応」「尊厳の重視」「自立支援」という介護・福祉の原点に立ち、職員一丸となって地域福祉の向上に努めてまいりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、多くの影響を受けました。法人主催の行事はほとんどが中止になり、各事業所の行事も中止あるいは限定的にせざるを得ませんでした。また、ご利用者とご家族の面会も制限しなければならぬなど、心苦しい一年でもありました。職員も福祉従事者としての使命感の自覚のもとに、公私にわたり感染しないように努めてくれましたが、その反面、なかなか気を休めることができているので心身面のケアが必要な状況です。また、物資・設備面においても、補助金を活用することにより、感染症予防のための備品を購入したり、換気システムを整備したり、面会や会議のオンライン環境を整えたりし、現在もそれらを活用して感染予防対策を継続しています。

(2) 施設介護では、従来から行っている自立支援やおむつに頼らないケアや認知症ケア等を継続しつつ、ご利用者の人としての尊厳の保持に努めました。ノーリフティングケアも2期生の養成やその他の職員への伝達研修が開始されたことに加え電動ベッドや福祉用具を充実させたことにより、職員の身体的な負担の軽減が数値的にも現れており、「抱え上げない介護」の定着に向けての大きな一歩となりました。褥瘡は0（ゼロ）を達成することができましたが、短期間しか継続できなかつたので、今後も看護師を中心に多職種が連携して褥瘡0（ゼロ）を継続できるように努めます。看取りについては、コロナ禍ということで面会時の対応には苦慮しましたが、ご家族に感染予防のご協力をいただきながら6名の方を看取ることができました。令和2年度は、熊本豪雨で被災した施設から短期間受け入れたお二人を含めると、17名の退所者がおられました。入退所をスムーズにすることにより年間の利用率は目標値（95%）を超えることができました。ただ、ショートステイでは感染症予防の観点から新規利用を控えざるを得なかつたため利用率は大きく下がりました。職員の育成ではエルダー・メンター制度に力を入れましたが、まだまだ十分とは言えませんので、同制度が確立できるように引き続き注力したいと思います。

(3) 在宅介護でも、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、荘外行事や買い物や地域活動等を自粛せざるを得ず、ご利用者に不自由な思いを強いてしまいました。その代わりに、各事業所では施設内に居ながら“施設外の気分”を味わえるような活動内容をあれこれと考え、工夫し、実践することにより、少しはご利用者の気分転換を図ることができたと思います。また、認知症ケアや業務改善（生産性向上）等の面においても、PDCAサイクルを活用したりして、何とか改善に繋げようという姿勢が各事業所で目につきました。今後の成果に期待したいと思います。コロナ禍ということで、各事業所で換気や環境消毒の徹底など万全の感染症予防対策を講じたことにより、外部との接点が多い在宅サービスにおいて

も感染者の発生を防ぐことができました。また、外出して広報する機会が減った代わりに、SNSの活用など新たな広報活動に取り組み始めた事業所もありますので、今後も継続してSNSを活用できたらと思います。新型コロナウイルス感染症予防のために利用を控えられたご利用者がいらっしやったことも影響し、在宅サービスの利用率はほとんどの事業所で厳しい数字になりました。当法人が提供するサービスの安全性（感染症の予防策）をもっとアピールすべきであったと反省しております。

(4) 外部研修は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止になったものが多かったため、職員の受講数も例年に比べて大きく減りました。内部研修は、新人職員採用時研修の内容・時間をより充実させ、新しく入職した職員がスムーズに現場に入って行けるように努めました。また、昇格職員研修を行い、昇格した職員がすぐに期待された力を発揮できるような環境整備も行いました。法人内研修は、年度の途中から事業所単位で再開し、年度の後半はオンラインで開催しました。その中で行われた法人内の取組発表では、13の事例発表がオンラインで行われましたが、いずれの発表も「自立支援」「生産性向上（業務改善）」「PDCA」と言ったこれからの福祉施設において重要な視点が入っており、今後に期待を持たせるような発表でした。

(5) 令和2年度はコロナ禍の影響を大きく受けた年度でしたが、その中におきましても、「ケアの質の向上」や「サービスの質の向上」に繋がった沢山の努力と実りがありました。また、ICTの活用やオンライン環境の整備等により、新たな発見や取り組みもありました。それらを次年度以降も継続し、更に発展できるように、職員一丸となって取り組みます。

2. 事業実施状況

(1) 会務の運営

ア 理事会の開催

第1回 理事会（令和2年5月21日 決議の省略）

- 1 令和元年度事業報告及び決算報告について
- 2 令和元年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について
- 3 職員就業規則の一部改定について
- 4 育児・介護休業等に関する規則の一部改定について
- 5 評議員会の決議の省略について

第2回 理事会（令和2年6月26日 決議の省略）

議 題

- 1 令和2年度予算の補正について

第3回 理事会（令和2年10月28日） 於 三和荘

議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 令和2年度予算の補正について

第4回 理事会（令和3年1月20日） 於 三和荘

議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 施設長の交代について
- 3 評議員会の招集について

第5回 理事会（令和3年3月17日） 於 三和荘

議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 令和2年度指導監査の結果について
- 3 令和2年度予算の補正について
- 4 施設管理部長の定年延長と55歳を超える職員の職務継続及び昇給について
- 5 運営規程の改定について
- 6 令和3年度事業計画と予算について

イ 評議員会の開催

定時 評議員会（令和2年6月22日 決議の省略）

- 1 令和元年度事業報告及び決算報告について
- 2 令和元年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について

第2回評議員会（令和3年2月17日）

- 1 役員（理事）の選任について

ウ 監事監査の実施

業務監査：令和2年5月8日 14：00～

会計監査：令和2年5月9日 10：00～

(2) 役員及び評議員の状況（令和3年3月31日現在）

ア 役員

役職	氏名	当初就任日	就任日	備考
理事長	吉田 精華	2008.5.17	2019.6.14	
理事	後藤 道彌	2003.1.1	2019.6.14	
理事	森 章三	2005.9.22	2019.6.14	
理事	荒木 哲美	2010.5.27	2019.6.14	
理事	吉田 睦子	2017.4.1	2019.6.14	
理事	藤井美千代	2017.6.20	2019.6.14	三和荘施設長
監事(業務)	伊藤 圭子	2018.7.1	2019.6.14	
監事(会計)	戸田 強	2016.3.18	2019.6.14	

(理事・監事任期：令和元年6月14日
～令和3年度6月定時評議員会の終結時)

イ 評議員

役職	氏名	当初就任日	就任日	備考
評議員	加藤 晃	2009.9.22	2017.4.1	
評議員	松村 茂	2006.3.27	2017.4.1	
評議員	田山 智晶	2010.5.27	2017.4.1	
評議員	大津山 壽奈子	2014.5.23	2017.4.1	
評議員	東 道夫	2015.5.21	2017.4.1	
評議員	大野 敏子	2017.4.1	2017.4.1	
評議員	竹内 浩美	2018.4.1	2018.4.1	

(評議員任期：平成29年4月1日
～令和3年6月定時評議員会終結時)

(3) 令和2年度実施事業等

- 4月1日 辞令交付式
- 4月7日 中途採用試験
- 4月27日 グループホーム三和苑インターネット回線工事
- 5月1日 三和荘永年勤続者表彰(10年2名)
- 5月8日 業務監査
- 5月9日 会計監査
- 5月22日 特別養護老人ホーム三和荘父母の会
- 5月26日 次亜塩素酸水生成器設置
- 6月7日 給水ポンプ取替工事
- 6月15日 特別養護老人ホーム三和荘
リフト付きシャワーキャリーと浴槽設置工事
- 6月26日 財産登記
- 6月28日 ささえりあ三和空調設備入替工事
- 7月2日 建築設備点検、防火設備点検
- 7月6日 阿蘇中央高等学校実習生受入
- 7月10日～8月27日
人吉豪雨の被害施設(五松園)から2名を特養に受入れ
- 7月14日 消防設備点検
- 7月27日 城北高校実習生受入
- 7月27日～29日
人吉福祉避難所応援 職員2名派遣
- 9月7日～9日
人吉福祉避難所応援 職員1名派遣
- 9月13日 特別養護老人ホーム三和荘敬老会
- 9月16日 中途採用試験
- 9月17日～19日
人吉福祉避難所応援 職員1名派遣
- 10月5日 三和荘消防訓練
- 10月22日 福祉の仕事出前講座(熊本西高校)職員派遣
- 10月23日 介護慰労金送金 148名(現職職員136名・退職職員4名
・派遣職員5名・委託業者3名)
- 10月28日 理事会
- 11月4日 出水事業所LAN工事
- 11月5日 まほろば館LAN工事
- 11月19日 ケアハウス居室トイレ止水栓取替工事
- 11月21日 三和荘2階空調設備室外機圧縮機交換
- 11月24日 高機能換気扇設置工事
- 12月15日 補導委託受入れ(～17日)
- 12月13日 特別養護老人ホーム三和荘 餅つき・忘年会
クリスマスケーキ寄贈 株式会社大野商事様
- 12月18日 グループホーム三和の邑 クリスマス忘年会
- 12月21日 特別養護老人ホーム三和荘 スカイリフト1台導入
- 12月27日 グループホーム出水 餅つき・忘年会
- 1月12日 グループホーム三和苑 介護リフトスマイル導入

- 1月14日 消防設備点検
 - 1月20日 理事会
 - 1月24日 三和荘LAN工事
 - 2月16日 センサー付き3モーターベッド導入
特別養護老人ホーム三和荘5台 グループホーム三和苑1台
 - 2月17日 評議員会
 - 3月8日 三和荘消防訓練
 - 3月17日 理事会
 - 3月19日 特別養護老人ホーム三和荘電動ベッド入替15台
- ※2月・3月に全職員のPCR検査実施

3. 施設福祉部

令和2年度の特別養護老人ホームでは、自立支援・認知症ケア・経口維持支援・おむつ外し・看取り・多職種連携の6つの中心的なケアを大切にし、サービスの質の向上に努めてまいりました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策が必要で、情報が錯綜する場面もありましたが、職員一人ひとりが感染予防策を意識し行動しており、新型コロナウイルスの感染を防ぐことができています。年間行事も感染予防でご家族の参加は控えていただき、ご利用者と職員だけで行いました。行事の様子はオンライン（YouTube）を活用して見ていただくようにしました。また、コロナ禍で外出がほとんどできなかったためグループ活動を充実させ、ご様子を毎月の「三和荘便り」に載せることができました。面会も熊本の感染レベルに合わせ対応をしました。

ノーリフティングケアの定着は、ノーリフティングケアの勉強会を行い職員の理解・意識改革を図ることができています。また、電動ベッドや福祉用具、介護ロボットの導入もあり、物品が充実したことで使用する機会も増え、ご利用者・職員共に身体の負担軽減に繋がっています。外部講師による2期生の研修も始まり、メンバーの意識向上にも繋がりました。

前年度に引き続き「褥瘡0（ゼロ）」を目指して、看護職を中心に多職種で取り組み、褥瘡の改善に努めました。長期間治療をされていた方もようやく完治され、2月には「褥瘡0」が達成できました。しかし数日間しか続かなかったため、再度職員間で褥瘡ケアの周知徹底を図りました。

看取りについては、今年度は6名の方を看取ることができました。24時間の日課表を作成し多職種で看取りケアに取り組みました。面会はコロナ禍であったため、ご家族にも感染予防の協力を得て行いました。時間制限もありましたが、最期の時がご家族の思いに沿えるよう努めました。

事故防止にも取り組み、転倒事故が前年度より半数に減少しています。しかし、アクシデント報告の中では服薬漏れが6件あり、配薬・服薬のマニュアル通りにできていないことも原因の一つでした。また、内出血やけがも増加傾向にあり、対策としてトイレの壁や手すりをクッション材などで保護することで再発防止に努めました。

特養の利用率については年間平均97.6%で、95%に満たない月はひと月でした。今年度は退所者が17名おられ、その中のお二人は、7月4日の人吉球磨地方の豪雨にて施設が水害に遭われた芦北の特別養護老人ホーム五松園の方々です。7月10日から8月27日までの短期間ではありましたが、体調を崩されずに安心して過ごされるよう努めました。

ショートステイの利用率は、新型コロナウイルス感染症予防のために新規利用を控えたため平均36.7%となりました。今後も居宅支援事業所との良好な関係作りに努めてまいります。

人員確保の取り組みとして、今年度はエルダー・メンター制度を採り入れ、新人職員・中途採用職員へOJTを行いました。

(1) 令和2年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告

【目標：人材の確保】

①働きやすい職場環境づくり

新人職員・中途採用職員へのOJTは、エルダー・メンター制度を取り入れ実施した。しかし、OJTの進め方が不十分なこともあり、定着につながらなかったケースもあった。それを踏まえOJTシートやチェックシートの見直しと、エルダー職員への指導を行った。

②実習生を受け入れ、入職へとつなげる

受入れ状況は、(3)令和2年度 実習生受入実績のとおりである。丁寧な指導を心掛け、法人の理念や施設の特徴・取組を積極的に伝えるなど行った。しかし、新型コロナウイルス感染症予防のため途中で中止となったケースもあった。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

①介護方法を見直し、利用者の安全かつ職員の負担軽減を図る

1期生のコアメンバーから介護職員へ、計画的にノーリフティング研修を実施し、職員の理解・意識改革を行った。9月より外部講師による2期生の研修も始まった。電動ベッドや福祉用具・介護ロボットの使用も大分定着し、職員の負担軽減に繋がっている。年2回の腰痛調査の結果、高リスクの介助業務を洗い出し、介助方法の見直しや環境面を整えた。

②利用者の残存機能の維持

ポジショニング・シーティング・トランスファーを個別に実践することができている。ご利用者の残存機能（特に下肢筋力）を維持するため、生活リハビリの実施とスカイリフトを使用した個別リハビリの実施に努めた。

【目標：ケア（業務）の標準化】

①統一したケアの実践

OJTを行う際は、ケアの基準書を活用し指導を行った。朝の申し送りの進め方を検討し情報の共有に努めた。各グループごとに業務の時間を見直し、体操やレクリエーションの時間を確保することができた。書類や記録等のデジタル化はできておらず、業務改善にはつながっていない。

②ケアマネジメントの実践とケアプランの周知

担当者会議前にはアセスメントを充実させ、ケアプランを作成した。ケアプランの周知を図るため、介護計画書を充実させ実践できるよう努めた。ご利用者の個々対応のマニュアルとして、看取りや褥瘡の方の24時間日課表を作成した。

【目標：地域貢献と情報の発信】

①地域活動への参加

新型コロナウイルス感染症予防のため、地域行事への参加はできなかった。

②地域の方に特養を知っていただく

新型コロナウイルス感染症予防で、年3回の家族会は実施できなかったが、行事は職員とご利用者で実施できた。行事の様子は、ご家族が観れるようにオンラインを活用した。また各グループでの活動の様子は、毎月の広報誌に載せご家族に見てもらおうようにした。

【目標：利用率の安定】

①特養の利用率95%維持する ショートステイの利用率50%維持する

毎月の利用率では、95%未満があったが、年間利用率は97.6%となった。入所判定で、5名以上の候補選定を行うなどスムーズな入所を目指した。が、年度中17名の退所、7月から毎月2~3名ほどの入退所がありスムーズに対応できないこともあった。ショートステイの利用率は新型コロナウイルス感染症予防で新規利用を控えたため、平均36.7%で50%維持は達成でき

なかった。

②利用者の健康管理

今年度は普段の感染症対策に加え、新型コロナウイルス感染症予防対策で新たな取り決めに全員に周知し実施した。37.5℃以上の発熱がみられたら、医療機関にて抗原検査を行った。重症化を防ぐため、早期発見・早期治療に努めた。が、体調急変での救急搬送が多かった。

ア 入所者年齢別内訳

令和3年3月31日現在

年齢	69歳以下	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計(人)
男	1	1	0	1	1	3	2	0	9
女	0	4	1	6	10	11	7	2	41
計	1	5	1	7	11	14	9	2	50

平均年齢 87.1歳

イ 地域別入所者内訳

熊本市 50名

ウ 入所者身体状況

	全面介助	一部介助	認知症	入院者
男	0	8	8	0
女	17	26	39	3
計	17	34	47	3

車椅子使用者 35名
歩行器使用者 5名
杖使用者 2名

手引き歩行 6名
歩行自立 2名

エ 要介護度別状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	0	0	4	3	1	8
女	1	0	10	15	16	42
計	1	0	14	18	17	50
	2.0%	0.0%	28.0%	36.0%	34.0%	100.0%

平均要介護度 4.0

オ 入退所状況

	入所	退所
男	4	3
女	12	14
計	16	17

令和2年度 特養日々入所者数

Table with columns for months (4月 to 1月) and days (1 to 31). Rows include '入所' (Admission), '入院' (Hospitalization), and '外泊' (Overnight stay) for each day, categorized by day of the week (e.g., 水, 木, 金, 土, 日, 月, 火). The '入所' row shows a steady number of admissions, mostly 50-52 per day, with some fluctuations in 10月 and 11月. '入院' and '外泊' rows show various counts, including zeros and small integers.

※ 令和2年4月1日～令和3年3月31日までの1日平均入所者数

18,533 ÷ 365 = 50.78人

(2) 短期入所生活介護利用状況

令和2年度

	収容力(A)	延利用者数(B)	利用率(B)/(A)	実利用者数	特例利用者	
	(注1)	(注2)	(注3)	(注4)	延人数	実人数
2年 4月	540	209	38.7%	23	0	0
5月	558	187	33.5%	23	0	0
6月	540	192	35.6%	23	0	0
7月	514	224	43.6%	28	44	2
8月	504	199	39.5%	24	54	2
9月	540	209	38.7%	28	0	0
10月	558	228	40.9%	23	0	0
11月	540	229	42.4%	24	0	0
12月	558	250	44.8%	27	0	0
3年 1月	558	205	36.7%	27	0	0
2月	504	149	29.6%	20	0	0
3月	558	136	24.4%	17	0	0

注1:「収容力」=ショートステイ用に整備したベッド数×月の日数

注2:「延利用者数」とは1日あたりの利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

注3:「利用率」小数点2位以下切り捨て

注4:「実利用者数」とは1ヶ月間に利用した人の実数

「特例利用者」の延人数とは1日あたりの特例利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

「特例利用者」の実人数とは1ヶ月間の特例利用者の実数

	最多利用日の延利用者数	最小利用日の延利用者数
2年 4月	10	4
5月	10	3
6月	12	3
7月	10	4
8月	9	3
9月	12	2
10月	12	4
11月	12	5
12月	12	2
3年 1月	12	3
2月	8	2
3月	9	1

(3) 令和2年度 月別行事報告

月	日	行事名	参加人数	家族参加者数	ボランティア数
5	22	父母の会	49	0	0
6	18	東グループおやつ豆だご作り	14	0	0
6	20	中央グループたこ焼きパーティ	13	0	0
6	23	西グループ寿司パーティ	6	0	0
7	14	そうめん流し	18	0	0
7	27	ホットケーキ作り	36	0	0
7	30	東グループ岬寿司出前	9	0	0
8	10	かき氷作り	23	0	0
8	17	スイカ割り	25	0	0
9	13	敬老会	50	0	0
9	25	牛乳寒天作り	17	0	0
10	19	ハロウィンパーティー	15	0	0
10	30	西グループミニ運動会	12	0	0
10	30	喫茶「イースト」おもてなし	15	0	0
11	9	芋きんとん作り	14	0	0
11	26	お好み焼き作り	17	0	0
12	13	餅つき&忘年会	51	0	0
1	13	カラオケ大会	20	0	0
2	19	チョコレートムース作り	19	0	0
2	24	チョコレートムース作り	17	0	0

その他・買い物 11/5 2名 ・ボランティア 7/20 熊本西高校 ベランダ窓ふき

(4) 令和2年度 実習受入実績報告

団体名	受入人数	受入延べ日数
熊本学園大学	2	25
阿蘇中央高等医学校	1	23
城北高等学校	1	2
合計	4	50

* 城北高等学校は、新型コロナウイルス感染症予防のため、途中で中止

4. 在宅福祉部

令和2年度の地域包括支援センターの事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って地域の行事や元気クラブなど様々な活動が自粛・中止等を余儀なくされたため、地域の方々と顔を合わせることがほとんどなく、地域づくりなどが思うように進まない1年でした。そのような中、ささえりあ三和への総合相談は前年度より延べ件数にして900件ほど増加し、特に介護保険申請や保健医療に関する相談が増加しました。その他にも困難な相談が多く、虐待が疑われたり、介護者に精神疾患や病気があり介護者自身に支援が必要なケースも増えています。そのため、西区高齢福祉課と情報を共有しながら関係機関と連携して対応する機会も増えました。研修会については、参加人数が多い集合研修は開催出来ませんでしたが、少人数での研修会やリモートによる研修会や圏域の主任ケアマネの会などは、IT機器を活用することによりオンラインで数多く開催することができました。自立支援型の地域ケア会議も10回開催しましたが、助言者のほとんどの方はリモートで参加してくださいました。今年度で3回目となる熊本西高等学校での認知症サポーター養成講座は、消毒・換気の徹底や席の間隔などに配慮するなど十分な感染対策を採ったうえで、1年生7クラス・2年生体育コース1クラスの計270名を対象に開催することができました。

三和荘通所介護事業所では、新型コロナウイルス感染症の予防のために中止になった荘外行事の代わりに、桜花見茶会や、職員・ご利用者が出し物をするという変わった形の敬老会などを企画し実施しました。また、職員の研修にも力を入れ、PDCAサイクルを活用して学びを深めることができ、職員自身のスキルアップや介護の質の向上につながりました。

訪問介護事業所では、担当ヘルパーの急な休みなどの場合にすぐに対応できるように、前もってご利用者に代行ヘルパー調整への同意をお願いするなど、ヘルパーの働きやすい職場環境を整えました。また、自立支援の取り組みとして、年度内に3回発行した広報誌の中でご利用者とヘルパーと一緒に掃除をしている写真を掲載し、「掃除をヘルパーにしてもらう」ではなく、「ヘルパーと一緒に掃除をする」など、自立への意識を深めてもらうようにしました。その結果、少しずつではありますが、ヘルパーと一緒に掃除をされるご利用者も増えており、このことはヘルパーのモチベーションの維持にも繋がっています。

グループホーム三和の邑では、職員全員が年5日以上の有給休暇の取得や、毎月の勤務希望休を取得するなど、働きやすい職場環境づくりに努めました。入居者の利用率95%という目標も達成できましたが、退所されてから次の方の入所されるまでに3週間もかかったケースがあったことが反省点です。困っておられる方をスムーズに入所に繋げるために、待機者の現状把握や入居の意向確認などを早期に行う必要性を痛感しました。

ケアハウスは、新型コロナウイルス感染症の予防の観点から地域との交流はほとんど出来ませんでした。また、ご利用者の荘外行事もほとんどが中止せざるを得なかったため、ご利用者の健康維持の観点から毎日のラジオ体操等の施設内の行事への呼びかけに力を入れました。その甲斐もあり、ラジオ体操への参加者は以前と比べて増加しています。目標としていたマニュアル作りは途中までしかできませんでしたので、次年度以降の課題にしたいと思います。ケアハウスのご利用者も高齢化・重度化が進んでおられることから、認知症の方への対応力を強化する必要性を感じた一年でもありました。

居宅介護支援事業所では、対応の仕方などの細かい部分において職員によってやり方が違う部分があったため、統一した業務マニュアルの作成に力を入れました。今後はその活用や改善により、業務の見直しや効率化にも繋がりたいと思います。また、個々のケアマネージャーの負担を軽減させるために、事業所内で情報を共有して皆が助言等を行えるようにしたり、新規受け入れ時は2名体制で訪問するようにしました。また、週1回の会議の中でお互いのケースを検証し合う時間を設けることにより、マネジメント力の向上にも努めました。

グループホーム三和苑では、今年度は入院者が相次ぎ、利用率が81.1%と目標を下回りました。また、ご利用者の重度化が進み、日常生活における移動や入浴などの介助に職員二人での対応が必要な方が4名もおられ、職員の身体的な負担も増えています。そのため、ノーリフティングケアの考え方を職員全員に浸透できるように次年度以降取り組みたいと思います。

三和苑デイサービスセンターでは、新型コロナウイルス感染症の予防対策に力をいれながら、ご利用者にも平常時と変わらないくらい余暇活動等に満足してもらえるように、職員一丸となってご利用者の「居場所づくり」「満足度の充実」を図れるように頑張りました。今後も継続して行きたいと思います。

グループホーム出水では、日常業務の中における業務のムラをタイムスケジュールの中で洗い出し、その改善に努めました。例えば、買い物日の業務負担が大きいことが分かったため、店舗での購入という従来の買い物スタイルを根本的に見直し、ネット注文での購入に切り替えることにしました。これにより時間に余裕が生まれ、ご利用者に関わる時間を増やすことができました。

デイサービスセンター出水では、コロナ禍の影響でPR活動などの事業所回りはできませんでしたが、ホームページの定期更新やInstagram開設による情報の発信、タブレットを活用した見学対応など、様々な工夫をすることで、利用率の向上に繋げることができました。また、職員のスキルアップにつながるように、業務の手順書を作り上げることができました。この手順書は、個別のケース対応など臨機応変な対応がスムーズにできるような判断基準も示しているので、今後有効に活用できたらと思います。

(1) 三和荘通所介護事業所

【目標：人材の確保】

- ①働きやすい職場環境づくり（意見が言いやすい環境）
新人介護職員2名、補助職員1名に対し、OJTを実施した。また、新人介護職員に対し年に4回の面談を行い、やりたいこと、やってみたいことなどの聞き取りをし、その内容に沿って業務を振り分けるなどの調整を行った。
- ②働きがいのある仕事に出来る
PDCAについて学びを深めることができた。その中で、今後の課題や、やるべきことが見えた。そのことで職員それぞれにもやるべきこと、身につけるべきスキルが明確になった。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ①ご利用者に合わせた介護方法の見直し ノーリフティングケアを学ぶ
ご利用者のためにスライディングボード導入したが、継続した使用ができなかった。
- ②職員の介護負担の軽減 安全な環境づくり
腰痛予防の視点から研修を実施し、予防体操や、入浴介助中にコルセットの着用を要請するなど行った。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ①サービスの質の向上に向けたケアの基準の策定
ご利用者ごとに3か月に1回のカンファレンスを実施した。
- ②業務の基準の策定と実践及びサービスの提供
新人職員が多かったことから、作成した手引書が不十分だったことが、より明確にわかった。そのため、何度も見直し、細かな事項も書き加えた。次年度は手引書を基準として活用できるよう取り組んでいく。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ①継続的な地域活動への参加
新型コロナウイルス感染症予防のため、地域活動の実施、買い物、荘外行事はすべて自粛した。
- ②高齢者健康づくりをテーマとした情報の発信を行う
地域への発信はできなかったが、ご利用者に対し、認知症予防、転倒予防、入浴の注意点などについての勉強会を実施した。

【目標：利用率の安定】

- ①利用率の向上
利用率は66.5%と目標の90%を大きく下回った。また、居宅介護支援事業所やささえりあへの営業活動も自粛していた。代わりに、毎月の実績報告の際にわかりやすさを重視した空き状況の案内や、活動内容を報告した。
- ②「元気になるデイサービス」の実現
ご利用者やご家族・ケアマネージャーのニーズを聞き取り新たな活動へとつなげた。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実運営日数	25	26	26	27	26	25	27	26	25	24	24	27	308	25.67
月間延利用人数	510	500	518	545	507	524	522	479	484	471	505	579	308	25.67
月間実利用人員	54	55	56	54	54	53	51	53	52	51	52	53	638	53.17
1日平均利用者数	20.4	19.23	19.92	20.19	19.5	20.96	19.33	18.42	19.36	19.63	21.04	21.44	239.4	19.95
稼働率	68.0%	64.1%	66.4%	67.3%	65.0%	69.9%	64.4%	61.4%	64.5%	65.4%	70.1%	71.5%		66.5%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	241	224	222	227	219	203	216	202	207	199	207	240	2607	217.3
要介護2	124	121	136	153	137	145	131	120	107	99	104	123	1500	125
要介護3	78	87	86	96	89	89	89	74	87	76	91	102	1044	87
要介護4	18	19	11	9	10	11	7	15	17	30	32	39	218	18.17
要介護5	5	7	8	8	9	7	9	4	7	7	8	6	85	7.083
合計	466	458	463	493	464	455	452	415	425	411	442	510	5454	454.5

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業対象者	0	0	0	0	0	0	4	4	3	3	4	4	22	1.833
要支援1	12	17	23	18	17	19	20	16	12	12	12	15	193	16.08
要支援2	32	25	32	34	26	56	46	44	44	45	47	50	481	40.08
合計	44	42	55	52	43	75	66	60	56	57	59	65	674	56.17

イ 三和荘通所介護事業所における業務の取組み

①送迎

送迎ボード・カードを用いて人数や送迎時間を細やかに考慮した配車を行った。不定期利用のご利用者への対応も行い、スケジュール管理も担当ケアマネージャーと連携しミスのないよう努めた。個別の送迎時間への対応も継続して実施した。助手席への乗降に足台を準備して事故防止に努めた。

②健康チェック

血圧・体温・脈拍を測定してその日の健康状態を把握するのはもちろんのこと、自宅での状態把握にも努めた。急変時にはご家族やケアマネージャー等の関係者と連絡をとり、病院受診などの早期対応に努めた。服薬に関しては、ご本人の名前の確認を行い、誤薬予防を行った。新型コロナウイルス感染症予防対策についても事業所と話し合いを行い、未発生につながった。

③レクリエーション活動

新型コロナウイルス感染症予防のため、荘外活動を自粛したこともあり、施設内で実施できる活動を新たに考案した。（桜花見茶会、職員、ご利用者が出し物をする敬老会など）

④食事

誤嚥予防のため、食前に口腔体操を取り入れた。飛沫予防も兼ねて「うい」体操を取り入れて感染対策も兼ねた実施が出来た。

ご利用者の要望に応えるために、調理委託業者を交えた給食委員会を毎月実施して連携を図り対応してた。（3ヵ月に一度）

イベント食の際には調理委託業者に依頼し、食事準備のデモンストレーションも実施した。ご利用者からも「より美味しく感じられる」と言葉が上がっている。

⑤入浴

自宅での入浴を希望されているご利用者のアセスメントを実施し、ケアマネジャー含めた多職種連携にて、希望の実現ができた。また、個浴槽に簡易グリップを装着することで、ご利用者の安全性を向上させた。

⑥機能訓練

ケアプランに沿った機能訓練目標を設定し、カンファレンスを実施し、多職種による会議を実施した。また、バーサルインデックス（BI）の活用も本格的に導入した。

⑦静養・物理療法・マッサージ

物理療法の順番を決めトラブル防止に努めた。使用箇所の消毒も徹底し、新型コロナウイルス感染症予防に努めた。

⑧生活相談

精神的な不安や経済的な不安など、多くの個別課題（悩み等）を持つ方もおられ、事案により、じっくりと傾聴し、内容によってはご家族や居宅担当者、そのほか関係機関とも適宜連絡・調整を行い、その課題解決や不安の軽減に努めた。

⑨通所介護計画書の作成・実行

計画書への署名捺印の不備をなくすため、ケアプランを事前に頂き、担当者会議時には通所介護計画書を持参し、同時に署名捺印をして頂く工夫を行った。個別機能訓練計画書も同様に行った。また各計画書の職員への周知も重要視し、職員名簿を活用し周知に努めた。達成度は70%ほどだった。

⑩その他

地域ケア会議に作業療法士が定期的に参加し、地域福祉に貢献することができた。

(2) 三和荘訪問介護事業所

【目標：人材の確保】

①働きやすい環境作り・相談できる雰囲気づくり

本人の希望休暇を取り入れる為に、代行の調整等をご利用者にも了解していただく事でスムーズに対応する事ができた。また、相談できる雰囲気であるために、日頃からコミュニケーションを図り、職員間で情報の共有を行うなど良好な関係を築くことができるよう努めた。

②ホームページを作成し求人を募集する

更新する事ができなかった。今後は、興味を引くようなホームページを作成し、求人を増やしたいと考えている。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ① 中腰姿勢で行わない
訪問独自の、体に負担がかからない動き方の学習会を行い、援助中に実践した。また、同じ姿勢を長時間をとらないように考慮し、援助の合間には簡単な体操を心掛けた。
- ② 道具の効率化を図り、無理のないスケジュール作成
ご利用者宅にある掃除道具を使用し、無理のない姿勢を意識する事で、今年度は、身体の痛みの不調を訴える職員はいなかった。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ① スキルアップ
年間計画に基づき、外部講師や他職種の専門職に依頼し、知識や技術を実践し身につけることができた。継続して行うよう努める。
- ② 自立支援
アセスメントを確認し、見直しを行う事で、ご利用者がヘルパーと一緒にできることや、見守ればできる事を提案し、ご利用者の気持ちを考慮しながら、無理なく継続できるように配慮した。また、広報紙の中でも、一緒に掃除をしている写真を掲載し、ご利用者に周知した。その結果少しずつ、ヘルパーが訪問した時に一緒に掃除をするご利用者が増えた。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ① 広報誌の作成
季節に合わせた広報紙発行を年4回計画していたが、3回しか発行できなかった。
- ② 地域活動での参加 法人内イベントへの参加
新型コロナウイルス感染症予防のため地域行事に参加できなかった。

【目標：利用率の安定】

- ① 当月の派遣予定表の数を減らさないよう努力する
家の中での転倒リスクを少しでも軽減できるように、ご利用者には安全に生活ができるよう、危ない箇所の注意喚起を行ったり、声掛けをおこない転倒予防に努めた。また、入院されている方の派遣時間帯に、他のご利用者に必要なサービスの追加援助を引き受けたり、新規依頼があった時は、期間限定でのサービスを提案し、利用率の安定を図るように努めた。
- ② 報連相の徹底と情報の共有
ご利用者の日々の様子を観察し、体調の変化や転倒によるケガなど、ケアマネージャーに情報提供を怠らないように努めた。

ア ホームヘルパー派遣状況

区分	派遣世帯数		派遣回数				派遣時間			
	要介護	要支援	要介護			総合事業	要介護			総合事業
			身体介護	生活援助	身体生活		身体介護	生活援助	身体生活	
4月	21	24	35	70	40	123	16.91	37.75	51.00	87.25
5月	21	25	33	83	35	120	15.67	33.50	54.25	86.00
6月	21	24	32	78	35	125	15.16	34.00	64.00	89.75
7月	21	24	32	79	34	126	15.16	32.75	59.75	89.50
8月	21	23	30	78	28	127	14.08	26.50	60.50	91.25
9月	20	24	31	78	32	116	14.75	30.50	61.00	81.50
10月	20	22	26	76	30	133	12.16	28.00	59.50	94.50
11月	19	24	20	74	29	121	10.00	27.25	57.25	84.75
12月	20	23	25	77	28	121	12.91	26.50	57.25	83.75
1月	20	23	29	73	24	106	14.75	23.00	55.25	74.50
2月	20	22	31	74	24	110	16.58	23.00	55.50	77.75
3月	21	22	45	86	28	119	26.25	26.75	64.50	83.50
合計	245	280	369	926	367	1447	184.38	349.50	699.75	1024.00
平均	20.42	23.33	30.75	77.17	30.58	120.58	15.37	29.13	58.31	85.33

イ 熊本市高齢者生活援助事業 (R2年4月～)

○ 利用なし

ウ ヘルパー会議実施・学習会状況

開催日時：毎月第3水曜日 16:00～17:00

参加者：後藤きよみ 松田佳代 松永智子 建石富美子 佐藤朝美

4月	5月	6月	7月
・年間方針及び取り組み ・介護保険法改正	防災・救急法	食中毒・感染症	調理実習
8月	9月	10月	11月
虐待防止について	リスクマネジメント	認知症・精神・うつ病の 対策や対応について	調理実習
12月	1月	2月	3月
認知症を伴う精神疾患	ユマニチュード	取り組み課題のまとめ	今年度の反省と 次年度の取り組み検討

(3) グループホーム三和の邑

【目標：人材の確保】

① 働きやすい職場づくり

職場の雰囲気は明るく笑顔がある職場になっていたが、特定の職員同士のトラブルがあり、円滑に業務が進まなかったことがあった。

② 希望休がとりやすい環境の維持

希望休取得はほぼ達成した。年次有給休暇取得については、年5日以上取得できた。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

① 膝痛に対する対応を学ぶ

法人内研修にてノーリフティングケアについて再度学ぶことが出来たが、膝痛に対するの学びが出来なかった。学んだことに対して実践できる職員はまだ少なかった。

② ご利用者の負担軽減を図る

ご利用者それぞれの動きに合わせ、残存能力を生かしケアを行った。ケアの方法も明確にできておらず、職員によって方法が違っていたこともあった。職員それぞれの体の状態に合わせてケアの方法を考え、ご利用者の負担軽減に繋げていきたい。

【目標：ケア（業務）の標準化】

① 業務手順書作成する

各担当を決め作成を行っていたが、うまく進まなかった。作成されたものから事業所会議にて話し合いを行い、精査することはできた。

② 決まった手順で業務を実施する

作成された手順書をもとに実施しているが、内容を把握できていない職員もいるため、周知していく。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ① ボランティアの受け入れを行う
新型コロナウイルス感染症予防のために実施できていない
- ② 地域の方々が集う場の提供を行う
新型コロナウイルス感染症予防のために実施できていない。地域に住まわれていたご利用者がおられたため、地域の方が面会に来られることはあったが、直接会っての面会は出来なかった。

【目標：利用率の安定】

- ① 利用率 95%を目指す
利用率は、95.0%以上あり目標を達成することができた。しかし、体調不良にて入院される方もおられたため、体調管理に努めていく。
- ② 空床期間の短縮
退所される方は少なかったが、退所後新規入所者が入所されるまで3週間かかってしまっていた。待機者に対して、現状把握、意向確認をしっかりとっていく。

ア ご利用者の状況

令和3年3月31日現在

性別	男性 1名 女性 8名
平均年齢	88.56歳（最高年齢95歳、最低74歳）
認知症の分類	アルツハイマー型認知症 7名 レビー小体型認知症 1名 前頭側頭型認知症 1名
認知症の程度	I…0名 IIa…3名 IIIa…6名
要介護度	要支援 2…0名 要介護 3…6名 要介護 1…1名 要介護 4…0名 要介護 2…1名 要介護 5…1名 (平均要介護度 2.89)

退所者 1名 退所日 R2.9.16

入所者 1名 入所日 R2.10.5

ウ 月別行事実績

月	行 事
4月	健康診断、花見(三和荘敷地内)
5月	阿蘇に行ったつもり(だご汁づくり)
6月	紫陽花ドライブ(住吉神社)、広島に行ったつもり(お好み焼き作り)
7月	外食したつもり(すし市場お持ち帰り)、スイカ割
8月	そうめん流し、かき氷
9月	敬老会、花火大会(三和荘芝生)
10月	運動会
11月	動植物園見学、個別支援いちょう見学(県庁)
12月	熊本城ドライブ、クリスマス・忘年会
1月	初詣(大塘神社)

2月	節分・恵方巻、バレンタイン
3月	ひな祭り、菜の花見学、花見(小島公園)

1ヶ月2回・・・訪問看護(たんぽぽ)訪問

エ 会議実績

事業所会議・・・・・・・・毎月1回 第1水曜日(18:00~19:00)

運営推進会議・・・・・・・・2か月に1回(奇数月)

新型コロナウイルス感染症予防のため書類にて行った

オ 勉強会

歯科勉強会・・・・・・・・月1回

身体拘束廃止及び高齢者虐待防止勉強会・・・3か月に1回

(4) 三和荘ケアハウス

【目標：人材の確保】

- ① 希望休が取りやすい
希望休が取れる様に、職員同士の協力連携を図りながら勤務表を作成することができた。
- ② 業務効率化を図る為に見直し改善をする
業務内容で気付いた点を話し合い、効率の悪い部分を改善する為にケアハウス会議の後に話し合う事が出来た。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ① 中腰姿勢にならない様にする
腰痛予防体操案を出し合っていたが、半ば以降実践していない。
- ② ノーリフティングケアについて学ぶ
法人内研修でノーリフティングケアの知識や技術の指導を受けたが、ケアハウスの業務に取り入れていくことはできなかった。

【目標：ケア(業務)の標準化】

- ① 統一した手順で行うことが出来るように修正していく(早出・日勤・遅出)
業務の流れや手順を整理し、誰が見ても分かりやすいマニュアルを作成する為に、職員同士で話し合い作成していたが、完成はできなかった。
- ② 整理整頓をする
必要な物と不必要な物を分類し不要な物は破棄するなど、毎月1回の整理整頓が出来た。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ① 地域の清掃活動や廃品回収、夏祭りに参加する
地域の行事を調べて参加協力の予定だったが、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止となり実践できていない。
- ② ケアハウスを知って頂く為の情報を発信する
新型コロナウイルス感染症予防の為、実践できていない。(ナイストライ・実習生の受け入れ・ひな祭り交流会)

【目標：利用率の安定】

- ① ラジオ体操、機能訓練の参加を促す健康状態の把握
ご利用者の健康状態を把握し、機能訓練やラジオ体操への参加を促し健康維持に努めた。参加者も増加している。
- ② ご利用者の身体の変化に注視していく
入居者が長く生活出来るよう日頃の入居者の観察、早期発見に努める為に、職員間の情報の共有のもと支援した。

ア 入所者年齢別内訳（令和3年3月31日現在）

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	1	4	4	9	87.3	99	71
女性	1	1	11	4	17	86.7	96	64
合計	1	2	15	8	26	86.9		

イ 在所期間

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	計	平均 在所期間
男性	1	1	6	1	0	9	3年7ヶ月
女性	1	11	1	2	2	17	4年9ヶ月
合計	2	12	7	3	2	26	4年3ヶ月

ウ 在宅サービス等利用状況

	ホームヘルパー	デイサービス	デイケア	訪問看護	リハビリ	ショートステイ
男性	4	5	1	2	0	0
女性	12	11	3	0	0	0
合計	16	16	4	2	0	0

エ 入・退去者の状況

入居者 5名（男性：1名、女性：4名）

退去者 4名（男性：1名、女性：3名）

退去理由： 他施設（4名）

オ 待機者の状況

男性0名・女性2名・夫婦0組

カ 週間行事

絵画クラブ(第1・第2月曜)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
買い物ツアー(毎週火曜)中止し、買い物支援に変更(新型コロナウイルス感染症対策)
書道クラブ(第2・第5水曜)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
華道クラブ(第2・第4木曜)入居者のみ
遊びクラブ(月3回)
機能訓練(月2回) 血圧測定(毎月第3週) 映写会(月1回)

キ 月別行事

4月	つつじバスツアー中止(新型コロナウイルス感染症対策)・映写会
5月	健康診断・端午の節句・菖蒲湯・母の日の行事・映写会・施設前芝生で食事会
6月	父の日の行事・映写会
7月	七夕行事・映写会・食事会中止(新型コロナウイルス感染症対策)
8月	映写会
9月	敬老の日の行事・映写会
10月	映写会・バスツアー中止(新型コロナウイルス感染症対策)・防災訓練
11月	映写会
12月	忘年会中止(新型コロナウイルス感染症対策)・ゆず湯・餅つき中止
1月	初詣・映写会
2月	節分豆まき・ひなまつり交流会中止(新型コロナウイルス感染症対策)・映写会
3月	映写会・避難訓練・桜花見のみドライブ

(5) 地域包括支援センター

【目標：人材の確保】

- ①職員が働きやすく、個人の能力を引き出せるような職場作り
毎日の朝礼で、ご利用者を支援する上での不安な点を相談できる体制を整えた。職員には個人差があるため、必要に応じ役割を変更したりして対応した。
- ②圏域内の居宅介護支援事業所やサービス事業所との関係を構築し、圏域内のケアマネージャーの力で高齢者支援につなげる。
主任ケアマネージャーの会を年間計画に沿って行った。圏域内事業所と年2回交流会を開催し関係構築を図った。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ①家族や地域へノーリフティングケアの普及啓発
年4回の広報紙の紙面に掲載し普及啓発に努めた。
- ②自立支援型、目標志向型のケアマネジメントを行い重度化防止につなげる
自立支援型地域ケア会議で検討して、少しずつ浸透している。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ①すべてのスタッフが状況に応じた対応を統一した手順で行うことができる。
全ての相談内容に対して、業務を見直してマニュアルを作成した。
- ②個々のプランの必要性を見極めサービス内容や期間、サービスの卒業へと意識付けを行っていく
ヘルパー支援では、アセスメントを行い必要性について検討するなど職員の意識が高くなっている。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ①地域ニーズに合わせ、集いの場を1つ立ち上げる
集いの場を城山校区に2つ立ち上げることができた。
- ②支えあえる地域づくりのために、住民主体の生活支援サービスの担い手を年間5名育成する
こはるカフェのボランティアや認知症の方の見守りなどで協力いただくことができた。

【目標：利用率の安定】

- ①介護予防マネジメントや介護予防支援の利用者数について、包括で担当できる件数を把握し、委託率の定数化を図る
プランナーの持ち件数の把握に努めたり、ご利用者の状況にあわせて調整を行った。また、必要に応じ委託している。

ア 介護予防マネジメント

- | | | | | | |
|---|-------------------|---------------------|-------|----------|------|
| ① | 利用者数 | 要支援1 | 1073人 | 総合事業のみ利用 | 399人 |
| | | 要支援2 | 1126人 | 総合事業のみ利用 | 291人 |
| | | 総合事業のチェックリスのみの事業対象者 | | | 160人 |
| ② | 介護予防サービス計画作成の委託状況 | | | | |
| | 地域包括支援センターで作成 | | 2199人 | | |
| | 居宅介護支援事業所に委託 | | 850人 | | |
| ③ | 介護予防サービス計画の委託先 | | 30事業所 | | |

イ 総合相談・支援業務の実施状況

① 相談件数（延べ件数）

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 在宅福祉生活に関する事	13	89	3	8	1	39	17	136	153
2) 介護保険に関する事	79	1,745	14	118	15	1,748	108	3,611	3,719
3) 保健医療に関する事	6	227	4	18	0	54	10	299	309
4) 認知症に関する事	7	68	3	10	0	23	10	101	111
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関する事	3	38	0	6	0	14	3	58	61
6) 家族問題に関する事	0	8	0	1	0	5	0	14	14
7) 経済的な問題に関する事	1	8	1	0	0	3	2	11	13
8) 居住環境に関する事	0	17	0	2	2	9	2	28	30
9) 在宅高齢者福祉事業に関する事	4	6	2	2	1	3	7	11	18
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関する事	9	115	3	12	1	53	13	180	193
11) その他	5	73	0	7	1	46	6	126	132
合計	127	2,394	30	184	21	1,997	178	4,575	4,753

② 新規相談者の内訳

項目	年齢区分					合計
	64歳以下	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	
1) 在宅福祉生活に関する事	0	5	8	4	0	17
2) 介護保険に関する事	3	24	47	31	3	108
3) 保健医療に関する事	2	3	4	0	1	10
4) 認知症に関する事	1	1	6	1	1	10
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関する事	0	2	1	0	0	3
6) 家族問題に関する事	0	0	0	0	0	0
7) 経済的な問題に関する事	1	1	0	0	0	2
8) 居住環境に関する事	0	0	1	1	0	2
9) 在宅高齢者福祉事業に関する事	0	0	5	2	0	7
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関する事	0	0	4	5	4	13
11) その他	0	1	3	1	1	6
合計	7	37	79	45	10	178

区分	延べ件数			合計
	電話	来所	訪問	
本人	12	4	8	24
配偶者	7	4	2	13
子ども	33	12	3	48
兄弟	1	0	0	1
親族	4	1	2	7
地域住民（自治会等）	3	0	0	3
民生委員	5	0	3	8
ケアマネージャー	23	7	3	33
事業者・施設等	27	1	0	28
その他	12	1	0	13
合計	127	30	21	178

③ 介護保険に関する事（延べ件数）

項目	電話	来所	訪問	合計
① 申請等の手続きに関する事	125	22	97	244
② 認定内容に関する事	96	7	18	121
③ サービス内容に関する事	90	15	44	149
④ 保険料・利用料に関する事	14	1	7	22
⑤ その他	1499	87	1597	3183
合計	1824	132	1763	3719

④ 権利擁護に関すること（延べ件数）

項目	電話	来所	訪問	合計
① 成年後見制度に関すること	3	0	1	4
② 老人福祉施設等への措置に関すること	0	0	0	0
③ 虐待への対応に関すること	22	4	8	34
④ 困難事例への対応に関すること	13	2	4	19
⑤ 消費者被害の防止に関すること	1	0	0	1
⑥ その他	2	0	1	3
合計	41	6	14	61

⑤ 在宅高齢者福祉事業に関すること

項目	電話	来所	訪問	合計	申請数	サービス適用数
① 高齢者安心支援事業	5	1	1	7	4	1
② 高齢者生活援助事業	0	0	0	0	0	0
③ 家族介護用品支援事業	5	2	2	9	2	2
④ 高齢者及び障害者住宅改造成事業関係	0	1	1	2	0	0
⑤ ひとり暮らし高齢者訪問事業	0	0	0	0	0	0
⑥ 寝具無料乾燥事業	0	0	0	0	0	0
⑦ 養護老人ホーム入所措置	0	0	0	0	0	0
合計	10	4	4	18	6	3

⑥ 包括的ケアマネジメント支援業務に関すること

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 介護支援専門員の日常業務に関する個別指導・相談	4	13	1	2	1	5	6	20	26
2) 支援困難事例等への個別指導・相談	5	102	2	10	0	48	7	160	167
合計	9	115	3	12	1	53	13	180	193

ウ 権利擁護

- ① 西ブロック権利擁護勉強会 毎月1回 第3金曜日（リモート開催）
※権利擁護研修会（令和2年度はリモート開催）
- ② 消費者被害を防ごう（令和2年度はリモート開催）
- ③ ささえりあ新聞で虐待について掲載
- ④ 西区コア会議4回開催
- ⑤ 西区包括・西区高齢福祉課虐待研修（リモートでのグループワーク）

エ 包括的・継続的ケアマネジメント

- ① ケアマネージャーの後方支援
 - * 主任ケアマネージャーの会での研修会1回（リモート開催）
 - * 日常的個別指導・相談を随時受け付け必要に応じ、同行訪問、巡回訪問、事例検討を行い必要に応じ関係機関と連携を行う。
 - * 介護支援専門員と医療機関との研修会（1回）（リモート開催）
 - * 西1圏域内「居宅との見守り会議」（2回）人数制限で開催
 - * 西ブロック居宅と包括の連絡会全体会（1回）（リモート開催）

* 自立支援型地域ケア会議開催 10回 (会議室とリモート併用)

* 課題解決型地域ケア会議の開催 5回

② 地域との連携体制作り

* 老人会の例会、サロン、敬老会への参加

* こはるカフェ (1回)

* ロコトレ (月2回) * グラウンドゴルフ (6回)

* 校区社協との定例会 (偶数月の開催、三和会 年6回)

* 民生委員の定例会 (毎月1回) … 8回開催 (8.9.1.2月中止)

* 校区自治協議会・・・池上自治協 (7.11.3月開催)

一水会 (城山自治協) … (5.7.11.3.開催)

高橋自治協 (令和2年度開催なし)

【書面開催】

* 城山の舎1、2・三和の邑・三和苑グループホーム運営推進会議

* 流永館運営推進会議

* 小規模多機能かがやき運営推進会議

【開催】

* 上代成城グループホーム響き (6月のみ開催、他は書面開催)

オ その他

① 認知症について

* ささえりあ講演会 中止

* 認知症サポーター養成講座 熊本西高等学校 270名
九州中央リハビリ看護学校 実習生6名
医師会看護学校 実習生4名

(6) 三和荘居宅介護支援事業所

【目標：人材の確保】

① 意見や提案がしやすい環境作り

週1回居宅会議では、新規ケースの紹介・進捗情報・新しい情報等を伝え、意見交換を行った。また、各担当ケースで困っている事や、問題等を上げ、原因・検証を全員で行った。

② 実習生の受け入れ

特別養護老人ホームの生活相談員と連携して同行訪問や担当者会議への実習生受入を行った。介護支援専門員実務者研修は、今年度は、コロナ禍の影響で実習はなかった。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

① 重度化防止に向けて事例検討会

初回訪問や定期モニタリングでアセスメントを行い、ご利用者の阻害要因となる原因を探し、サービスの見直しやプラン変更など行った。多職種と連携を取りながら、ご利用者が自立した生活を送れるよう検討する。

② 介護者(家族)の介護負担軽減

それぞれ環境(住環境・人)に応じて多職種と連携し、ご利用者・家族へ提案を行った。その反面、コロナ禍のため、自宅訪問が限られてしまい、同行訪問が難しかった(特に退院前の家屋調査等)

【目標：ケア(業務)の標準化】

① マニュアル作成(業務マニュアル・接遇マニュアル)

業務マニュアルでは、項目ごとに担当者を振り分け、新人職員から中途採用者が分かりやすいように工夫した。完成はしたが、令和3年度の介護

保険改正もあり、見直し作業を行う予定。接遇マニュアルは、完成まで至らず。自己点検も含めて作業を行っていく。

②個別目標を立て、専門性を高める

各自テーマ（支援に関係する内容）を1つ決め、研修会・勉強会に参加しながらリサーチし、年2回（10月・3月）に発表を行った。しかし、コロナ禍の影響で研修会が殆どなく、自主勉強となった。令和3年度も個人勉強会は続けていく。

【目標：地域貢献と情報の発信】

①地域資源・地域活動の実態把握。インフォーマルサービスの周知包括主催・行政主催の研修会には必ず参加し、情報収集を行った。また、包括より地域資源（社会資源の情報）について学んだ。コロナ禍の影響で地域イベント等には参加せず。

【目標：利用率の安定】

①信頼を得られるように接遇に心掛け、ご利用者・家族に接する。新規受け入れ時は、必ず2名で訪問。正確な実態調査（アセスメント）を行うようにした。サービス利用がないご利用者に対しても、定期的に連絡を取り関係構築に努めた。稼働率は85%までにはいかなかった。

ア 令和2年度ケアプラン作成年間実績（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	68	68	72	74	80	73	73	75	74	71	73	75	876
地域密着型通所介護	20	19	18	19	21	19	19	18	18	18	18	18	225
通所リハビリ	13	14	14	16	15	13	15	15	17	17	16	16	181
訪問介護	45	44	46	46	46	46	45	43	38	39	42	40	520
訪問入浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
訪問看護	5	4	5	6	6	8	9	8	8	11	12	16	98
訪問リハビリ	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
認知症対応型通所介護	0	0	0	0	2	2	2	1	2	2	2	2	15
福祉用具貸与	61	65	66	68	70	69	71	70	68	65	70	69	812
短期入所生活介護	14	13	12	13	11	15	13	16	14	13	12	11	157
短期入所療養介護	0	1	0	1	1	2	1	0	2	0	0	1	9
福祉用具購入	1	0	1	1	0	0	1	2	1	0	0	0	7
住宅改修	1	2	1	1	1	1	3	1	2	1	0	0	14
新規契約	2	1	3	4	4	2	3	4	2	4	3	1	33
実件数	101	102	103	109	113	108	109	110	110	108	109	109	1291

イ 担当者会議実績（件）

4月	12	7月	12	10月	9	1月	7
5月	7	8月	10	11月	11	2月	7
6月	14	9月	11	12月	8	3月	10

ウ 要介護別利用者数

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
59	24	18	7	4

エ 介護予防への移行者数（人）

4月	0	7月	0	10月	0	1月	0
5月	1	8月	1	11月	1	2月	2
6月	0	9月	1	12月	0	3月	0

(7) グループホーム三和苑

【目標：人材の確保】

- ①全員が働きやすいと思える環境をつくる
シフト作りは希望に添うように作成し、公平なシフト作りに努め、年5日以上の有給休暇を取得できた。急用や体調不良による長期休暇等は勤務変更を行い、皆で協力し合い勤務に支障がないように努めた。しかし休み希望日が多い日に公平にシフトが組めず、不平が生じたところもあった。ケアや情報の共有ではノートを活用したり、申し送り時に気づきを伝え合い、お互い連携して協力し合うことで良好な人間関係を築けるように努めた。
- ②ケアについても全員が同じ方向を向き、誰もが同じケアをできるようにする。
グループホーム会議において職員一人ひとりのケアの提案を尊重し、決定したことについて全員が同じ方向を向いて仕事を行うように努めた。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ①48回の抱え上げを少しでも減らすことができる
日常的に行っていた不良姿勢を改善した。そのために環境を整備し、取り組みとして福祉用具を使い「双方にやさしいケア」を実践した。4種類の福祉用具を活用し抱え上げ回数を1日14回までに減らし、そして現在は6回と大幅に減らすことができ負担が軽減した。
- ②ノーリフティングケアについて学ぶ機会をつくる
技術認定者より実技指導を計画的に全員に行った。また、実技だけでなく根拠に基づいたケアも学ぶことができ、少しずつ浸透している。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ①昨年のできていない部分（環境整備、リハビリ、ノーリフティングケア、災害時の対応等）を完成させる
基本的な手順書は作成できているが、ご利用者ごとに細かく作成できていないところもあり、様々な場面において臨機応変な対応が求められた。
- ②手順書で決めたケアが実践できる
項目についての意見交換をしながら実践に努めているが、見直して行ったことを更新するまでできていない。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ①三和苑のことを地域の方にもっと知っていただく
運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため対面での

開催を中止し、熊本市高齢介護福祉課の指導室に確認し書面にて行った。運営推進委員の方々にはグループホームでの取り組み、認知症について、外部評価について、避難訓練の様子等について知っていただき、貴重な意見をいただいた。

②地域に出かける

新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の皆さんと交流の場を設けることはできなかった。しかし人混みを避け、地域の公園、神社等を利用して気分転換を図った。行き交う地域の方々と挨拶をした。

【目標：利用率の安定】

①利用率 95%以上の維持

持病の悪化、急変された方が 4 名病院へ入院され、治療を行ったが回復されず退所となり、2 名の方は次の生活の場を選ばれた。ご家族と頻りに話し合いを行い選択されるのに時間を要し、退去の見極めの時期を決定するのが難しく利用率を維持することができなかった。

②空床期間の短縮

他居宅を訪問し営業活動を行った。三和苑の情報を提供して案内したが、もう少し在宅で過ごしたい等入居につながらず空床の期間が長く続いている。早期入所につなげるために今後も広報活動を行い、居宅との関係性を良くしていきたい。

ア ご利用者の状況

令和3年3月31日現在

性別	男性 0名 女性 6名		
平均年齢	87歳（最高93歳、最低82歳）		
認知症の分類	脳血管性認知症	0名	
疾患名	アルツハイマー型認知症	6名	
	老人性認知症	0名	
認知症の程度	Ⅲa・・・3名	Ⅲ・・・2名	Ⅳ・・・1名
要介護度	要支援2・・・0名	要介護1・・・0名	要介護2・・・1名
	要介護3・・・1名	要介護4・・・3名	要介護5・・・1名
			(平均介護度4.0)

入所者 2名 退所者 6名

イ 月別行事实績

月	行事	月	行事
4月	健康診断	10月	ハロウィンパーティ
5月	しょうぶ湯 救急法	11月	ワックスがけ
6月	誕生日会	12月	クリスマス会 ゆず湯
7月		1月	初詣
8月	夏祭り	2月	節分豆まき 梅ドライブ
9月	敬老行事 消防訓練	3月	雛まつり 花見ドライブ 消防訓練

*週1回訪問看護

*3ヶ月毎1回介護相談専門員訪問

エ 会議実績

事業所会議 毎月第3水曜日 (10:00~11:00)

運営推進会議 2ヶ月に1回奇数月第3水曜日

口腔勉強会 月1回

身体拘束廃止及び高齢者虐待防止勉強会 (4月・7月・10月・1月)

(8) 三和苑デイサービスセンター

【目標：人材の確保】

①働きやすさと良好なチームワークの構築

②やりがいを感じられる職場作り

業務の担当、役割を定期的に検討し、見直しを行った。コロナ禍の中ということもあり、業務のスムーズな進行に繋げ、余裕のある勤務体制を整えた。だが、慣れるまで時間を要した。3密を避けるよう職員一人ひとりが心掛け業務遂行に努めた。職員のストレスマネジメントも定期的に行い、負担となっている業務や人間関係等についてのフォロー体制や、個人面談、会議での話し合いを通し、情報の共有、ストレスを軽減しながらチームワークを良好に保つ為に努めた。施設の整備と整理整頓を環境美化委員が中心となり、各職員が心がけ、不用な物品は、処分して環境を整えた。また、接遇マナーの向上では、不適切な点があれば、当日の終礼時、またはデイ会議等で職員全員が話し合い改善してきた。前年度以上に話し合うことで、一人ひとりの思いを強く感じることができ、実現に向け計画的に取り組むことができた。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

①ご利用者に合わせた介護方法の見直し

②職員の介護負担の軽減

前年度同様、ご利用者に合わせた介護方法を見直しながら、情報の共有を行った。介護負担の増加に伴い、安全にケアが行えるように努めた。統一したケアを行う事で、問題の解消へと繋がり職員の負担の軽減にも繋がった。会議でリスクの検討を行う事で、問題の早期発見に繋がった。ご利用者、全職員(腰痛予防、運動不足解消)を交えラジオ体操も継続し、定着している。職員は、リスクマネジメントを心がけ、その日のご利用者の心身状態を把握し、状態に合ったケアを行い、事故、転倒が起きないように努めた。ヒヤリハット20件、事故(インシデント)は、2件となった。新型コロナウイルス感染症感染予防対策の業務を継続している中で、定期的に話し合いをしながら今後も検討し対応策を考えていく。

【目標：ケア(業務)の標準化】

①寄り添うケア

②新たなアクティビティ活動の導入

寄り添うケア、「関わりケア」を重点的に考え、ご利用者満足度の向上を視野に入れたケアに繋がった。ご利用者の安定した利用の定着と認知症に伴う問題の解消に努めた。感情へ働きかけること、ユマニチュードの実践、傾聴することで職員とご利用者の関係づくりができた。プランを立て実行し、上手くいかなかったらまた再検討し、改善に繋がるまで試行錯誤を繰り返す、ケアが定着するまで取り組んだ。新たなアクティビティ活動を取り入れ、既存のサービスの充実を図った。このことが、ご利用者の心身の活性化と満足や、職員のマンネリの防止にも繋がった。

【目標：地域貢献と情報の発信】

①地域との交流の促進

②地域の社会資源の活用

地域の社会資源である公園での機能訓練(散歩)の継続や地域のお弁当

屋さんへ依頼し促進に努めた。また、毎月一回の三和苑周辺のゴミ拾いを行った。地域交流会の中止もあり、地域の方との交流や発信について今後検討する必要性を感じている。

【目標：利用率の安定】

①特技の再実現と意欲の向上

②居心地の良いサービスの提供

前年度と同様に花札、囲碁、将棋、トランプ、インターネット麻雀、キャッチボール等の趣味活動が盛んに行われた。また、タブレットの導入により YouTube の鑑賞が楽しみのひとつとなり新たな試みとなった。自己の能力を発揮できるよう以前の趣味活動や、新たな事に働きかけることが、認知症の方が穏やかに一日を過ごすことにつながっている。また、「関わりケア」を通して、居心地の良い状態になるように働きかけ、「なぜそういう行動をとるのか、原因は何か」様々な視点で意見を出し合い、分析し、チームで情報の共有にも努めていった。人によってそれぞれ違う居心地があり、人と人の触れ合いが精神的作用を生み、様々な感情がでてくる。今後も三和苑が「居心地」の良い居場所になるよう、職員全員で取り組み考え、関わりながらご利用者の意欲の向上に繋げた。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実運営日数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310	25.92
登録人員	166	166	174	160	163	160	171	176	172	170	165	171	2014	167.8
月間延利用人数	531	632	680	669	629	625	712	648	656	569	594	685	7630	635.8
月間実利用人員	50	56	63	62	60	60	65	64	63	61	61	62	727	60.58
1日平均利用者数	20	23	25	24	23	23	23	26	24	20	24	25	280	23.33

(イ) 要介護度別利用状況 (延利用人員)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	167	172	191	204	224	241	302	278	247	232	257	288	2803	233.6
要介護2	118	158	163	185	168	157	167	157	136	119	123	141	1792	149.3
要介護3	128	177	209	157	134	105	115	96	122	101	85	110	1539	128.3
要介護4										14	14	16	44	3.667
要介護5														
合計	413	507	563	546	526	503	584	531	505	466	479	555	6178	514.8

(ウ) 介護予防対象者利用状況 (延利用人数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業対象者	7	6	6	7	6	7	5	6	7	6	6	7	76	6.333
要支援1	24	27	36	37	30	35	31	32	42	35	38	40	407	33.92
要支援2	87	92	75	79	67	80	92	79	75	62	71	83	942	78.5
合計	118	125	117	123	103	122	128	117	124	103	115	130	1425	118.8

イ 三和苑デイサービスセンターにおける業務の取り組み

① 送迎

各ご利用者の心身の状態や、家族の意向を考慮しながら、安全で快適に送迎できるように努め、効率よく配車し時間の調整を図りながら送迎を行った。乗車前の検温、消毒、換気を行った。

(送迎地域・・・城山、中島、池上、高橋、小島、松尾、春日、川尻、南高江、白藤の各校区)

ご家族にも協力を求め、乗車時の検温、消毒の徹底を行うことで新型コロナウイルス感染症予防対応策を行った。

② 健康チェック

血圧・体温・脈拍を測り、その日の健康状態を把握して日中の様子を観察した。異常がある場合は早期対応を心がけ、ベッドで静養したり、急変時には病院受診する等の処置を行った。

③ 運動器機能向上訓練・機能訓練

ストレッチ(セラバンド、タオル体操は中止)し、平行棒、バランスマット、マシン、TV体操、散歩による上下肢運動等それぞれに応じた訓練を行い、身体の筋力と柔軟性の維持、向上を図った。また、頭の体操や作業療法も取り入れ、心身の活性化に繋げた。

④ レクリエーション・余暇活動

心身の活性化を図る目的として趣向を凝らした活動を行い、ご利用者が飽きのこない楽しい活動になるよう努めた。また活動を通じて交流も図った。密にならないようレクリエーションを大幅に変更し、試行錯誤しながら行った。季節の行事では、その月に応じた活動を行うが、花見ドライブも状況を見て判断し、自粛せざるを得なかった。

(梅、桜、藤の花、紅葉ドライブ・父母の日・夏祭り・敬老会・もちつき等)

⑤ 食事

食前の口腔体操を行い(なるべく発声は控える)、手指消毒、パーティションの設置をし、個々の心身状態や嗜好に応じた食形態を提供し、嚥下や食事量にも注意し、誤嚥がないよう見守りに努めた。おやつ作りも月1回行った。

⑥ 入浴

湯あたりや転倒、容態急変等に注意し、安全に快適に個々の心身状態に応じてその人に合った入浴介助を行い、清潔保持に努めた。また、密にならないよう配慮し介助に努めた。

⑦ 養護・物理療法・マッサージ

ベッドや畳の上でゆったり心地良く休めるように環境を整え、マイクロ波やメドマ、マッサージ機等の物理療法を行った。また、専門職員による身体のマッサージを行い、首、肩、腰等、筋肉をほぐし安楽を図った。

⑧ 相談

個々のご利用者が抱えている悩みについて傾聴し、問題がある場合はご家族、居宅や包括と連携して早期の問題解決に努めた。

⑨ 事務・書類等の処理

介護保険請求は実績・単位数等をよく確認して行い、他事業所との連携でミスがないよう行った。介護計画書の作成は担当者会議に参加した職員が作

成し、ケアプランとして各職員が情報を共有し、現場で反映するように行った。また、他の書類も役割分担をして、各自の責任のもと書類を作成した。職員の事務的な負担を少しでも軽減する為、ご利用者となるべく関わる時間を設ける為、パソコンでの作業を少しづつ取り入れてきた。書類の整理にも時間を要した。

⑩ その他

朝夕にミーティングを行い、その日の日程や役割の確認や、問題点や改善点などを全員で話し合い、情報を共有してチームワークによるスムーズな業務の遂行と問題解決につなげた。三和苑の理念である安全・安心・信頼を伝え、職員一人ひとりの介護サービスの質の向上を考える機会となった。また、新型コロナウイルス感染症予防対策（換気、マスクの定着、手指消毒、共有部の消毒）を徹底した。現在もボランティアは、お断りしている。

(9) グループホーム出水

【目標：人材の確保】

【目標：人材の確保】

- ①働きやすい職場環境を作る
- ②働きがいのある職場を目指す

職員の希望を聞き計画的に有給休暇を取り入れ、年間7日取得することが出来た。連勤や超勤になることがなく、負担がかからない勤務表作りが出来た。業務については、業務分担を見直し、残業を減らすことが出来ており、ほぼ定時退社を行うことが出来た。また、5S活動を行い、どこに何があるのか見てわかるように整理整頓を工夫し、探す手間を省くことが出来た。昼休憩も1時間きちんととることが出来ており、働きやすい職場環境になったのではないかと。職員の離職は無かったが、派遣職員が2か月ごとに代わり定着しなかった。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ①ご利用者・職員双方の負担軽減を図る
- ②職員の一連の流れの中での、環境整備を行う

会議で法人内研修にて行われたノーリフティングケアの振り返りをおこなった。また、2～3か月に1回職員に腰痛調査アンケートを実施し、アンケートの中で負担が大きい部分に対して、ノーリフティングケアの手順書を作成し、ケアの場面ごとにもいつでも手順書を見ることが出来るようにした。さらに、腰痛予防体操を業務に取り入れ、ご利用者と一緒に職員も毎日実施するようにしており、腰痛調査アンケートでは腰痛の回答は見られなくなった。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ①ご利用者の変化に気づき、職員で対応を統一する
- ②ケアプランの周知徹底

日常業務を職員ごとにタイムスケジュールでリストアップし、職員によってムラがある事が分かった。さらに買い物日が時間に余裕がない事が分かり、買い物をネットイオンスーパーにアウトソーシングした。また、買い物の仕分け作業に時間がかかっていることも分かっており、仕分け作業を分かり易く簡単な方法に変更した。ケアについては利用者を担当制にすることでケアプラン内容の周知徹底やケアの統一が図り易くなり、入居と同時に車椅子から歩行器歩行への変更や、おむつやパットを外すことができた。

【目標：地域貢献と情報の発信】

①地域に開かれた施設を目指す

②地域に出かけて、施設を知っていただく

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、計画通りに取り組むことが出来なかった。運営推進会議は書類でのやり取りとなっている。去年から実施している地域マップ作りや、国府二郵便局内のボランティア募集のチラシ掲示を継続したのみとなっており、地域行事への参加は出来なかった。入居者募集のチラシを地域に出てポスティングしたり、インスタグラムを開設するなど、コロナ禍でもできることを行い情報の発信を実施している。

【目標：利用率の安定】

①利用率 95%以上を目指す

②外部機関から情報を得る

利用率 95%以上の維持が出来なかった。ご利用者の健康状態の悪化や特養への住み替えで2名退所となり、次の入所までに時間がかかった。空きが出てすぐに病院から紹介してもらったが入居にはつながらず、老健、ささえりあ、居宅等に速やかに連絡を取ったが入居にはつながらなかった。管理者不在時に見学や問い合わせが続いた為、どの職員でも施設説明や聞き取りが行えるように体制を整えた。

ア ご利用者の状況

令和3年3月31日現在

性別	男性0名 女性8名
平均年齢	88.3歳（最高年齢98歳、最低年齢81歳）
認知症の分類	アルツハイマー型認知症……7名 老人性認知症………0名 レビー小体病………1名
認知度の程度	Ⅱb…3名 Ⅲa…3名 Ⅲb…1名 Ⅳ…1名
要介護度	要支援 2…0名 要介護 3…2名 要介護 1…4名 要介護 4…0名 要介護 2…2名 要介護 5…0名 (平均要介護度 1.8)

※退所者 2名（医療機関入院1名、特別養護老人ホームへ1名）

入所者 1名（R2.11.22）

ウ 月別行事実績

4月	桜見見学（国府公園）（中止） 健康診断
5月	母の日の集い・家族会（中止）
6月	一斉清掃、初夏ドライブ（椿公園）（中止）おやつ作り（どら焼き）
7月	出水幼稚園七夕交流会（中止） 花火（出水事業所中庭）
9月	敬老会・家族会（中止） 敬老のお祝い
10月	白山校区民大運動会見学（白山小）（中止） 運動会レク
11月	三和荘秋祭り見学（中止） 紅葉狩り（出水事業所中庭）
12月	出水幼稚園クリスマス交流会（中止）、餅つき大会・家族会（家族会のみ中止）
1月	初詣（施設内にて手作り神社）

2月	梅見見学（出水事業所中庭）
3月	国府公民館創立記念餅つき大会（中止） 焼桜餅づくり

*週1回訪問歯科

*3か月毎1回介護相談専門員訪問(中止) *年3回訪問理美容

*国府公民館サロン毎月第4金曜日（13：30～15：00）参加自粛

*9町内自主防災役員会毎月第4金曜日（19：00～20：30）参加自粛

エ 会議実績

グループホーム会議 職員会議の後の木曜日（18：00～19：00）

運営推進会議 2ヶ月に1回偶数月第3金曜日（10：00～11：00）

※今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い

書類送付にて意見交換実施

事業所内勉強会等

月	勉強会	月	勉強会
4月	身体拘束委員会・研修	10月	身体拘束委員会・研修
5月	リスクマネジメント	11月	感染症対策
6月	感染症対策 消防訓練	12月	接遇・苦情対策 消防訓練
7月	身体拘束委員会・研修	1月	身体拘束委員会・研修
8月	接遇・苦情対策	2月	リスクマネジメント
9月	リスクマネジメント	3月	感染症対策

認知症勉強会

月	勉強会	月	勉強会
4月	虐待防止と認知症の基本に関する 穴埋め問題を解いて学ぶ	10月	成年後見制度について
5月	認知症ケアの原則	11月	認知症との向き合い方「礼儀正しくかかわる」※
6月	認知症の症状と対応の仕方	12月	認知症との向き合い方「相手に応じる」※
7月	レビー小体型認知症について	1月	認知症の種類と特徴について
8月	認知症ケア「できることを引き出すための視点」※	2月	認知症との向き合い方「相談事を持ちかける」※
9月	コミュニケーションケアのレッスン「5つの感覚の理解と表現」※	3月	コミュニケーションケアのレッスン「感情の表現」※

※は専門誌「おはよう21」より引用

(10) デイサービスセンター出水

【目標：人材の確保】

- ① 働きやすい環境を整備する
- ② チームワークを強化し、やりがいのある職場環境を整える
計画的な有給休暇の取得を目標にしたが、病気や家族の都合で職員によ

っては計画的に行えない職員もいた。法人の最低取得目標である7日は全職員取得できた。また、職員の急な休みはお互いを気遣うことができるよう、日頃より各々と確認することによりサポート意識や体制整備に努めた。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

- ① ご利用者の身体状況に合わせた介護を行う
- ② ボディメカニクスに則した介護を行い、腰痛等を防ぐ
6月の法人内研修にてボディメカニクスに則した介助方法を学び、実践の場で活用できるようにしたが、まだまだ学ぶ時間を設ける必要がある。現在、腰痛の職員はいるものの、各職員の努力や工夫で予防を図れている。ご利用者の身体状況に応じ、職員の身体の負担にならないよう移動補助具（スマイル）の活用を話し合いながら行った。

【目標：ケア（業務）の標準化】

- ① 手順書の仕上げを行い、ケアの標準化を進める
- ② 手順書を活用し、OJT やスキルアップを行う
手順書の仕上げを行うべく、見やすい書式に変更した。また、職員のスキルアップにつながるよう新たな手順書を順次追加した。ケアの標準化は、申し送りやデイ会議にて個別のケースの把握を行うとともに、手順書を活用し、その場に応じた臨機応変な対応を行えるよう判断基準を示すことで職員の対応として変化が少ないよう工夫した。

【目標：地域貢献と情報の発信】

- ① サロン活動を通し、地域の方々と連携を図る
- ② 地域の社会資源となる
白山7町内、9町内サロンとも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加を見送らせていただいた。来年度はできる限り協力を行い、地域のつながりを深め、地域の社会資源となるよう努めていく。

【目標：利用率の安定】

- ① ADL 維持のため自立支援に努め、欠席や入院、入所を防ぐ
- ② 実績まわりでのPR活動や日々の連携を強化することで、新規利用獲得を目指す
新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で事業所回りは行えなかった。その代わりにホームページの定期更新やインスタグラム開設による情報発信、タブレットを活用した見学対応など、工夫することで時間は掛かったが徐々に利用率の向上に繋がってきた。感染症対策で大きな制限がある中、問い合わせが昨年度と比べ30件増加した。その中で利用率が伸び悩んだ原因は、入所や入居(6名)、引っ越し(1件)、持病悪化による長期入院(4件)や逝去(3名)が多かった。特に目立ったことが「独居のため、家族が心配」「主介護者の介護負担」での入所や入居であり、複数回ご利用の方が多かった。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	26	26	27	26	25	27	25	24	24	24	27	307	25.6
月間利用者数	264	270	267	255	244	285	279	270	261	274	295	357	3323	277
月間延利用者数	198	203	200	191	183	214	209	203	196	206	221	268	2491	208
一日平均利用者数	10.2	10.4	10.3	9.44	9.38	11.5	10.3	10.8	10.9	11.4	12.3	13.2	130	10.8

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護 1	101	112	115	115	115	127	115	120	123	139	145	170	1497	125
要介護 2	20	15	9	16	17	20	38	40	41	37	49	59	361	30.1
要介護 3	52	51	54	50	45	50	28	16	16	16	24	41	443	36.9
要介護 4	20	19	20	9	6	18	22	22	16	11	9	0	172	14.3
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	7	0.58
合計	193	198	198	190	183	215	203	199	196	203	230	274	2482	207

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援 1	0	5	2	0	0	4	4	0	0	4	4	5	28	2.3
要支援 2	71	68	67	65	61	66	72	72	65	67	61	78	813	67.8
合計	71	73	69	65	61	70	76	72	65	71	65	83	841	70.1

(エ) 季節の行事

- 4月 出水カフェ 4/14
- 5月 端午の節句 5/5 母の日週間 5/11～16 出水カフェ 5/19
- 6月 出水カフェ 6/17 父の日週間 6/15～20
- 7月 出水カフェ 7/16
- 8月 夏祭り 8/3～8 出水カフェ 8/14
- 9月 敬老会 9/15～21 出水カフェ 9/19
- 10月 出水カフェ 10/19
- 11月 出水カフェ 11/17
- 12月 出水カフェ 12/23 クリスマス・忘年会 12/23～26
- 1月 オンライン初詣 1/4～9 出水カフェ 1/20
- 2月 出水カフェ 2/12 オンライン梅見 2/22～27
- 3月 出水カフェ 3/20 オンライン桜見 3/30～31

イ デイサービスセンター出水における業務の取組み

① 送迎

安全に送迎ができるように人員を配置し、ご利用の方が安心して利用できるように状態に合わせた送迎に努めた。認知症の方で自宅での衣類準備や衣類交換など生活介助が必要な方への対応を行った。また送迎時ご自宅での様子を伺い在宅生活維持できるよう各関係機関との連携に努めた。また、3か月に一度、機能訓練指導員が要介護者の自宅を訪問し、自宅での必要な動作や環境整備、機能訓練について確認を行った。

② 健康チェック

ご利用者の方が安心して利用できるように、看護職員を中心に利用日毎に健康チェック、状態の把握を行い、体調不良や急変時に対応できる体制を整えてサービスの提供を行った。血圧等のバイタルチェックで再検の場合は職員間で共有し、適宜判適切に対応した。また、必要に応じて病院受診の相談や変化時の報告等を行い、家族・各関係機関との情報交換を密に行うように努めた。

③ 生活相談

利用時は自宅での様子や悩み等の把握ができるように、全職員でかかわりを多く持ち、ご自宅での生活課題解決のため助言や関係機関との連携を重視した。職員間での情報共有のため日々の申し送りでは内容を濃く、申し送りノートを活用し細かく記載した。

④ 機能訓練・運動器機能向上訓練

機能訓練指導員を中心に多職種で連携し機能訓練計画書を作成した。在宅生活を想定した機能訓練を行うとともに、より在宅で問題なく生活を送れるよう自立支援の視点で援助を行った。個別での訓練では、個々の状態に合わせて計画的に実施し、心身の活性化に努めた。

⑤ 日常動作訓練

週ごとにレクリエーションを決め、心身の活性化に努めた。個別レクリエーションでは脳トレ、作業療法、歌活動、身体活動等をご利用者自身で選択し、生きがいづくりや日々の楽しみとなるよう支援した。またできる能力維持のため、レクリエーション以外でも生活リハビリの視点で自立支援に努めた。

⑥ 食事

ご利用者の状態や希望に沿った食形態・代替食等で提供を行えるよう調理師と連携に努めた。デイサービスでの食事を楽しみにしていただけるよう、食事が楽しみになるような工夫や出水カフェ、行事食を行った。手作りにこだわり、ご利用者の希望されるメニューの聞き取りにも力を注いだ。

⑦ 養護

静養室にベッドを確保し状態に合わせて静養時間を設けた。病気の影響、体力的に低下や心配がある方は看護師や各関係機関と相談し、適切に対応した。また、メドマー・マッサージ機など物理療法を活用し、気分転換できるように努めた。

⑧ 入浴

入浴中の病院受診を必要とする大きな事故は無かった。ご利用者の入浴動作維持のため自立支援の視点で、個別機能訓練計画書や通所介護計画書と連動し、できる動作やできない動作の見極めを行い、過介助にならないよう徹底した。今年度も第二週を入浴剤週間とし好評だった。

ウ その他

① 地域との関わり・PR活動

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で白山 7・9 町内サロンへの参加は自粛させていただいた。また運営推進会議も感染拡大防止のため、6・12月に書面にてお願いをさせていただくなど、地域との関わりについて影響が出た一年だった。来年度はサロン以外でも通所サービスに求められる役割が増えたため、全てをスムーズに対応するべく準備を進めていく。

② 書類関係

ケアプランに基づいた目標を立て、援助・評価ができるように努めた。毎

月1回評価を兼ね担当ケアマネージャーへ報告を行った。運動器機能向上加算（要支援）、機能訓練加算Ⅰ、認知症加算は毎月評価等を行った。

② 会議等

毎日、朝夕にご利用者についての報告、ご利用者情報の共有を密に行い職員間のケアの標準化や統一を図った。月1回のデイサービス会議では、実績、ご利用者情報の共有、行事の確認、法令や介護保険についての学び、ノーリフティングケア、接遇、利用率向上の学び、認知症の勉強会などを行った。法人内研修では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートで出事業務所で実施した。リモートは職員会議でも活用したが、移動時間が無くなるため大変効率的で、生産性向上に繋がった。

5. 事務部

【目標：人材の確保】

①職員が離職しない職場づくり

子の看護休暇制度の拡充と育児目的休暇制度の導入を新たに行った。また、年5日の年次有給休暇取得義務の法人の対象者については、全員が取得することができた。

②積極的な求人募集

令和元年度の職員構成や給与状況等の概況を集計し公開した。事務所内の整理整頓を行い、職場環境の整備にも努めた。求人募集についても、ホームページの採用情報ページの更新を行い、求人募集にも力を入れている。

【目標：ノーリフティングケアの実践】

①ノーリフティングケアの推進

健康診断の実施や、法人内部の研修でノーリフティングケアの必要性や福祉用具の使い方について学んだ。デスクワーク時の姿勢や、重量物を持ち上げる時の姿勢に気を付けながら、身体的負担軽減に努めた。地域への情報発信までには至らなかった。

②機器の導入計画を作成し、計画的に導入を進める

特別養護老人ホーム、グループホームに電動ベッドや介護リフトの導入を進めることができた。導入に当たっては、人材確保等支援助成金や熊本県介護職員勤務環境改善支援事業費補助金の申請手続きを行った。

【目標：ケア（業務）の標準化】

①業務の共有意識を高める

毎月の予定を共有することで、業務の共有意識を高めて、決められた期間内に業務を完了するように努めた。

②システムの機能を活用し、業務効率を図る

請求業務や有給管理について、システムの機能を使用することを検討したが、実態と合わず活用できなかった。しかし、新しく社会保険等の電子申請や、所得税のダイレクト納付などを取り入れたことで、業務の効率化に繋がった。

【目標：地域貢献と情報の発信】

①ボランティアや地域住民の受入と支援

新型コロナウイルス感染症感染予防の為、ボランティアや地域住民の受入れを一時お断りさせていただいている。

②地域住民に向けた情報の発信

秋祭りなどの施設行事等の中止により、地域に向けた情報の発信については行うことができなかった。

【目標：利用率の安定】

①職員の経営参画の意識向上

職員に向けた経営状況の報告を四半期ごとに行った。経営会議を各デイサービスセンターと行った。来年度以降も継続し、他事業所も行う計画である。

②運営の透明性を確保し、ご利用者、ご家族の満足度向上

施設の窓口として、来荘者への丁寧な対応や、挨拶の徹底に努めた。また、運営の透明性を確保するため、法人の現況、業務や財務等に関する情報の公開をホームページ上や事務所窓口で行った。

6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検

目標	具体的目標	項目	拠点	実績												備考	
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
災害対策	① 防災教育	①防災教育	全体					8/21	9/2	10/5							
	② 防災訓練	①火災 ②地震 ③風水害	全体								10/5				3/8	夜間：3月	
安全衛生管理	① 浴場機器管理	①循環浴ろ過装置機器点検	三和荘	4/11			7/26				10/11				1/24		
		②温水ヒーター機器点検				7/26						1/24					
		③循環浴配管洗浄				7/26											
		④循環浴ろ過装置オーバーホール(1回/3年毎)				7/26											
		⑤循環浴レジオネラ菌水質検査							7/26							1/24	
	② 井戸水衛生管理	①浄水水質検査(50項目検査・9項目検査)	三和荘	4/21	5/28	6/22	7/28	8/29	9/22	10/20	11/11	12/8	1/12	2/5	3/9	6月9月12月3月：50項目	
		②原水水質検査							9/22	10/20				2/5		39+指標菌	
		③浴場レジオネラ菌水質検査(特委)					7/28										
		④井戸水ろ過装置機器点検		4/21	5/28	6/22	7/28	8/29	9/22	10/20	11/11	12/8	1/12	2/5	3/9		
		⑤井戸水ろ過装置オーバーホール(1回/7年毎)															※R7年度(2025年度)予定
③ 給排水設備管理	①受水槽・ポンプ点検	三和荘													2/8		
	②受水槽清掃														2/8		
	③受水槽水質検査														2/8		
④ 電気保安管理	①保安点検	三和荘	4/11	5/5	6/4	7/6	8/4	9/4	10/11	11/5	12/4	1/6	2/4	3/4	11/29:総合点検		
⑤ 定期清掃	①ワックス掛け(特委)	三和荘				7/14					11/6				3/5		
設備保守管理	① 消防設備	①定期点検	三和荘				7/14								1/14		○機器点検 ◎総合点検
		出水	三和苑	4/6		6/26						12/24					
	② 建築設備	①建築設備定期検査	三和荘				7/2										※R4年度予定
		②特殊建築物定期検査(1回/3年毎)	三和荘														
	③ 防火対象物	①防火対象物点検	三和荘				7/2										
	④ エレベーター設備	①機器点検	三和荘		5/27		7/16					10/14			1/18	3/26	○保守点検 ◎法定点検
		出水		4/15		7/18					10/29			1/16			
	⑤ リフト設備	①機器点検	三和荘	4/6	5/27	6/18	7/16	8/20	9/25	10/14	11/25	12/18	1/18	2/18	3/26	○保守、◎法定	
	⑥ 空調設備	①機器点検	三和荘			6/10					10/23						◎保守点検 ○自主点検
⑦ 浄化槽維持管理	①定期点検	三和荘	1.16	1.18	1.16	1.16	1.15	1.15	1.15	4.16	1.16	4.18	1.17	1.15	○保守、◎清掃		
	②法定検査	三和荘												3/18			
⑧ 厨房機器点検	①機器点検	三和荘		5/21							11/18					◎保守点検	
	出水			5/21							11/18						
⑨ 防災カーテン	①定期クリーニング	三和荘						8/13									
		出水															
		三和苑															

7. 職員研修の状況

(1) 法人内研修

令和2年度

【法人内研修】		
実施日	研修内容	参加人数
R2.7	権利擁護(権利擁護の基本について・事例検討・ケアの振り返り)	82名
R1.8.22	事故の原因と対策を考えよう	84名
R2.9	各事業所取組中間発表	88名
R2.10	ノーリフティングケアの理解を深める ノーリフトを学び安全で安心な職場閉居をつくる～あなたの職場は安全ですか？身体の使い方を考え腰痛等を予防しましょう～	66名
R2.11	チームワークを考える	62名
R2.12	事例を通してケアの視点を学び、ケアの標準化へつなげる	82名
R3.1.28	令和2年度取組発表 三和荘通所「アセスメントカUP～情報共有」・三和苑デイ「トレーニング～継続したトレーニングによる心身状態の変化」・デイ出水「帰宅欲の方への対応～帰宅欲・佛語を取り除く」・居宅「温故知新～今までの業務を見直し、新しいものをつくり上げる」・GH三和の邑「Stay Homeを楽しもう」・GH三和苑「ささえ手～利用者・職員双方に優しいケアを目指して」・GH出水「スクラップ&ビルド～気持ちよく働ける職場作り～働くならGH出水で」	75名
R3.2.4	令和2年度取組発表 事務所「スマートワーク・チャレンジ～業務の効率化」・ケアハウス「機能訓練の充実～身体を良く知り元気に過ごす」・訪問「自立支援～安全な暮らしを提供するために」・包括「コロナウイルスが私たちに教えてくれたこと」・特養医務「褥瘡ゼロを目指して～痛みのない生活を取り戻そう」・特養「利用者・職員双方にやさしい排泄介助～ノーリフティングケアの定着」	68名
R3.3.25	令和3年度事業計画・予算	65名
※4月～6月 コロナウイルス感染予防のため中止		
【新人職員採用時研修】		
採用日	職員	内容
R2.4.1	越智大聖 橋本彩月 高沢和馬 上野百華 津々見彩花	社会福祉法人真光会経営理念・実施事業概要について 事故防止とリスクマネジメント・感染症対策等 各事業所見学・説明
R2.4.13	青木	
R2.10.1	津多龍太	
R2.11.1	入江辰剛	
R3.3.1	宮内麻衣	
【新卒新人職員研修】		
日付	職員	内容
R2.8.21	越智大聖 上野百華 津々見彩花 高沢和馬	①社会人としてのビジネスマナーの再確認②認知症の理解 ③法人のあゆみ④フォローアップ⑤事務所実習⑥三和荘ツアー⑦記録感想⑧食事介助
【新卒3年未満職員研修】		
日付	職員	内容
R2.12.11	平川美桜里 上野百華 津々見彩花 越智大聖 宮坂莉奈 森山匠	職場における心の健康づくり
【介護職員研修～中途採用者～】		
日付	職員	内容
R2.9.2	矢野晃誠・坂川和敬・中川優太・青木博哲	①介護サービスについて②認知症について③法人のあゆみとこれからのについて④ノーリフティングケアについて⑤三和荘ツアー
【昇格職員研修】		
◎目的 ①管理者としてのスキルを身につけ事業所の安定した運営ができる ②適切なリーダーシップを発揮しチームワークの醸成ができる		
日付	職員	内容
R2.4.23	泉宣行・中津慎吾・橋本順子・伊藤千春	運営規定等での事前確認の後、今後の目標設定する ・管理者として身につけたいスキル・事業安定に必要なこと・リーダーシップとは
R2.12.23		目標の進捗状況と課題報告・労務管理について

(2) 施設外研修

【特別養護老人ホーム三和荘】		
日付	研修名	参加者(職種)
11月20日	医療的ケア教員講習会	山口明津佐(看護職員)
11月26日	高齢者施設等への応援派遣に係る感染防止対策研修	大川洋江(看護職員)
12月11日	介護現場施設サービスにおける生産性向上セミナー	出口美恵(介護職員)
12月15日	能力開発啓発セミナー/キャリアアップ講習会	永田健司(介護職員)
1月12日	キャリアアップ講習会	永田健司(介護職員)
1月29日	介護ロボット全国フォーラム 重点政策・成果報告・取組報告	高瀬直人(理学療法士)
【熊本市西1地域包括支援センター】		
日付	研修名	参加者(職種)
7月27日	令和2年度地域賦活支援センター職員・市町村職員等研修会	上妻美穂(介護支援専門員)
1月5日	令和2年度熊本県高齢者権利擁護基礎研修会	矢野鈴奈(保健師)
1月6日	令和2年度熊本県高齢者権利擁護基礎研修会	矢野鈴奈(保健師)
1月7日	令和2年度災害に備えての支援者のスキルアップ研修会～サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)の開催について	村上恵子(生活支援コーディネーター)
1月14日	令和2年度第2回熊本市ゲートキーパー養成研修会	伊藤千春(主任介護支援専門員)
2月1日	令和2年度地域共生社会推進人材養成研修会	村上恵子(生活支援コーディネーター)
2月1日	令和2年度地域共生社会推進人材養成研修会	山形孝子(介護支援専門員)
2月13日	令和2年度自立支援に向けた多職種人材育成事業に係る研修	伊藤千春(主任介護支援専門員)
3月13日	社会福祉士実習指導者講習会	村上恵子(生活支援コーディネーター)
3月14日	社会福祉士実習指導者講習会	村上恵子(生活支援コーディネーター)
【三和荘居宅介護支援事業所】		
日付	研修名	参加者(職種)
7月21日	平成31年度熊本市居宅介護支援事業者協議会総会及び研修会	川上峰子(管理者)
【グループホーム三和苑】		
日付	研修名	参加者(職種)
11月26日	高齢者施設等への応援派遣に係る感染防止対策研修	松本亜紀(管理者)
【グループホーム出水】		
日付	研修名	参加者(職種)
11月26日	高齢者施設等への応援派遣に係る感染防止対策研修	瀧本大介(管理者)
【グループホーム出水】		
日付	研修名	参加者(職種)
11月26日	高齢者施設等への応援派遣に係る感染防止対策研修	和泉翔大(管理者)
【事務】		
日付	研修名	参加者
10月16日	雇用管理責任者講習①介護事業の雇用と労務管理のポイント ②働き方改革関連法の実務対応	白石幸大(出納員)
11月2日	社会福祉施設に係る労務・安全衛生管理講習会	黒田修代(事務)
11月13日	雇用管理責任者講習①勤怠管理と年次有給休暇の実務対応②職員が成長する賞金・評価制度の作り方	白石幸大(出納員)
【施設長】		
日付	研修名	
3月5日	熊本市老協協緊急役員会	
3月9日	熊本市老協協役員会予定	
3月12日	令和2年度第3回熊本県老人福祉施設協議会総会	
【副施設長】		
日付	研修名	
11月16日	福祉人材採用力向上セミナー	
12月1日	令和2年度熊本県社会福祉法人経営者協議会災害派遣福祉チーム(熊本DWAT)研修会	
12月11日	介護現場施設サービスにおける生産性向上セミナー	
3月2日	令和2年度熊本県社会福祉法人経営者協議会経営者セミナー「社会福祉法人での生産性向上と働きがい向上を生み出すための業務改善について	
3月26日	技能実習責任者講習	
	介護福祉士実務者研修	越智大聖・中川優太
	介護福祉士初任者研修	豊永和子